

数理探究クラス 初めての巣立ち

(本荘高校東京同窓会報 鳳山児水 第 20号より)

今春、数理探究クラスの 1 期生が巣立った(本高 111 期生)。平成 25 年 4 月の入学から 3 年、本荘高校の活性化・区別化という創設理念のもと、学習面に於いて牽引する学級となるよう取り組んできた。進学実績で貢献することで本高のがんばりを内外に発信するという意図もあった。果たして、その結果はどうであったのか。

1 進学実績

在籍 35(男 15 女 20)。4 月当初の志望は国公立大 32、私大 3。結果は、国公立大 23、私大 8、専門学校 1、未定 5(総計 37:ダブルカウント 2)。主な進学先として、東大 1、東北 2、千葉 1、秋大 8、医医が 1、新潟 3、岩手 2、国公立 23 名(65.7%。全体では 38.0%)

このように、数理探究クラスは、確かに、本校を学習面で牽引する学級になった。目標であった東大、東北大複数、医学部医学科の進学は見事に達成してくれた。

2 多彩な仕掛け

彼らの向学心に火を付けるためにいろいろな取組を準備してチャレンジさせた。学習合宿、大学での数理探究キャンプ、博士号教員による授業、高大連携授業、数学者による講演、物理チャレンジ、理科研究発表会、科学の甲子園、土曜に行われる探究講座など多種多様な仕掛けを用意した。1 年次からこうした取組へ参加することで、幅広い教養と探究心を身に付けることができたし、物事を一步踏み込んで考えることもできるようになったようだ。読書の大切さやを知り、進路選択にも大いに役立ったように思う。

海外(台湾)への修学旅行は、視野を広げ、グローバル感覚を身に付けることに繋がった。こうした仕掛けは彼らの考え方や行動パターンに少なからぬ影響を与えていた。

3 まとまりの良さと周囲への影響

3 年間同一のクラスで困難な取組に主体的・協働的に取り組むことで、「学習は団体戦」的なまとまりが生じ、学校行事でもその強みを見せた。結果的に、学習面のみならず学校生活全般で本高を大いに牽引する結果となった。普段の生活のまとまり、団結力、安心感は、生活や学習の土台であるとともに、大きな相乗効果をもたらすものであることの例証となっていた。

4 担任の振り返り

この 3 年間で 3 年次の担任に振り返ってもらった。

「同じ目標を持った仲間の集まりだからこそ、互いに切磋琢磨でき、さらに高みを目指そうという雰囲気を持つことができた。高い学力を有する生徒の存在が他の生徒にも刺激となり、クラスの学習に対する意識が飛躍的に高まった。」

「理系色の強いクラスではあったが、終わってみれば進路は様々。しかし、新しいことに興味を持ち、『探究』の精神を身に付けることができたことは、文系理系を問わず、これからの社会で活躍するための大きな財産になったと思う。そして、この3年間の経験が受験だけにとどまらず、生涯にわたり、学び・学習の活動を続けるための下地になることを願っている。」

数理探究クラスの担任は毎日が挑戦だったようです。感謝に堪えない。

創立 110 周年を迎えた当時の吉原校長が、国公立難関大学や医学・薬学系学部への進学を今まで以上にサポートするために立ち上げた改革であった。今、ここにこうした成果も現れ、少し安心はしたものの、「まだまだ本高はこんなもんじゃない」という思いがある。結果に満足することなく、彼らと同様、さらなる高みを目指して精進してゆきたい。

一区切り迎えて、改めて全ての職員に感謝の意を表するとともに同窓生の方に母校発展のために一層のご支援ご協力をお願いして報告を終えたい。